

部長名	拠点整備部長
-----	--------

部のミッション

まちづくりの実行部隊として、政策決定をされた各種ハード事業の円滑かつ、着実な事業推進を図り、まちの課題解決や、まちの付加価値を高めることで、八王子市民のQOLを高める。加えて、庁内の関係部署と連携をすることで、これらハード事業の整備効果を最大限発揮することができるよう連携を図っていく。

部のビジョン

政策決定された事業の確実な遂行はもちろんのこと、庁内の多くのソフト事業とも密接に関係していることから、それぞれの担当課が責任を持って連携し、事業の完遂することで、拠点整備部が求められている役割を果たしていく。

重要度が高い事務事業					
番号	施策番号	細施策番号	事業名	重要度が高いとする理由	事業実施課
1	22	3	八王子駅南口集いの拠点整備	八王子医療刑務所の跡地を活用し、「学び・交流・防災」の機能を持つ「サードプレイス」を整備し、市民のQOLの向上を図る。	集いの拠点整備課
2	22	3	旭町・明神町地区周辺まちづくりの推進	旭町街区と明神町街区と東京たま未来メッセと連携しての一体的なまちづくりを推進や、産業イノベーションの創出し、中心市街地の賑い・交流・回遊性を繋げ、中心市街地の活性化に寄与する。	市街地整備課
3	22	3	都市計画事務 (中心市街地公共トイレ環境づくりの推進)	「八王子市中心市街地まちづくり方針」における戦略の1つである「回遊・滞留の場づくり」を進めるため、中心市街地の公共トイレ環境の向上を図る。	市街地整備課
4	31	1	中心市街地の活性化	多様な世代がつながる活気あるまちを目指し、「第2期 八王子市中心市街地活性化基本計画」に掲げる各事業の進行を管理しながら、官民連携し合いながら、まちの賑わいを創出する。	市街地活性課
5					
6					
7					
8					
9					
10					

施策番号	22	細施策番号	3	細施策名	主要駅周辺の拠点・回遊空間の形成	事業名	八王子駅南口集いの拠点整備
目標設定にあたって重視した点				経営計画に掲げる重点事業の推進			
【目的】				【目標（2030年のあるべき姿）】		【目標（年度末のあるべき姿）】	
<p>●八王子刑務所跡地を活用し、学び、交流、防災の機能を備えた市民のサードプレイスとなる「集いの拠点」整備・運営を行う</p>				<p>●利用者のサードプレイスとして、桑都の杜で得た学びや交流がシビックプライドの醸成に寄与し、市民力・地域力の向上及び桑都の杜を訪れた利用者のQOLが高まっている。</p>		<p>●施設が10月にオープンし、「桑都の杜」に市民が集い賑わいが創出されている。また、運営事業者のみだけでなく、地域と連携したイベント等が企画・実施され、多くの利用者が訪れている。</p>	
【現状】				【課題】		【事業内容】	
1	<p>●平成30年度_「八王子駅南口集いの拠点整備基本計画」策定</p> <p>●令和2年度_都市計画決定（公園、地区計画等）</p> <p>●令和3年度_国所有地の取得、PFI事業の実施方針等公表、債務負担行為による事業費の確保</p> <p>●令和4年度_PFI事業者の選定・契約</p> <p>●令和5年度_既存施設の解体工事及び基本設計</p> <p>●令和6年度_実施設計・工事着工</p> <p>●令和7年度_「桑都の杜」愛称決定、条例制定、工事継続</p> <p>●令和8年度_10月オープンに向けた整備完了を推進、オープニングイベントの内容協議及び決定</p>			<p>●令和8年10月の開館を確実に進め、事業費増がないよう事業者と調整を重ね施設・公園工事を滞りなく竣工させること。</p> <p>●庁内PTによる実施方針を作成し、長期的な賑わい創出イベントを実行すること。</p> <p>●交付金の手続きを適切に進めていくこと。</p> <p>●市民ワークショップなどを継続して開催することで、新施設への期待感を高めていくこと。</p> <p>●オープニングイベントを事業者と共に実行すること。</p> <p>●自動運転実証実験に向けて連携すること。（都市計画部）</p>		<p>●PFI事業者である八王子ミライテラスパートナーズ(株)との建設協議会、開館準備協議会、統括MG業務連絡会議、全体協議会等への参加</p> <p>●PFI事業者業務の進捗管理</p> <p>●庁内PTの事務局として、実施に向けた庁内調整及び報告</p> <p>●関係所管との定期的な情報共有</p>	
施策番号	22	細施策番号	3	細施策名	主要駅周辺の拠点・回遊空間の形成	事業名	旭町・明神町地区周辺まちづくりの推進
目標設定にあたって重視した点				経営計画に掲げる重点事業の推進			
【目的】				【目標（2030年のあるべき姿）】		【目標（年度末のあるべき姿）】	
<p>「旭町・明神町地区周辺まちづくり構想」の目標である”賑い・憩い・交流”のまちの実現を図る。</p> <p>東京都が整備した東京たま未来メッセと連携し、旭町・明神町街区の一体的なまちづくり(地区開発)を推進する。また保健所跡地に整備した暫定広場(えきまえテラス)を活用し、まちの賑わいや回遊性向上を図る。</p>				<p>まちづくり構想の目標である”賑い・憩い・交流”のまちの実現が図られている。</p>		<p>〈地区開発の推進〉関係者と地区周辺の将来ビジョンを共有し、開発コンセプトや事業プランの見直しの検討を進め、事業化に向けた準備が整っている。</p> <p>〈えきまえテラス〉東京たま未来メッセや地元商店会などと連携を図り、更なる賑わいや交流が生み出されている。</p>	
【現状】				【課題】		【事業内容】	
<p>〈地区開発の推進〉市財政及び工事費急騰等の理由から開発コンセプトや事業プランの見直しが必要となっており、東京都や鉄道事業者など関係者と協議を行っている。</p> <p>〈えきまえテラス〉管理運営をまちづくり公社に委託し、中心市街地における貴重な憩いの場として、隣接するたま未来メッセと一体的にイベントなどで利用されている。</p>				<p>〈地区開発の推進〉東京都や鉄道事業者など関係者との連携を図り、地区周辺の将来ビジョンを共有し、より付加価値の高い開発コンセプトへの見直しや、事業採算性を高める計画を練り直し、事業スキームの見直しを含め、事業化に向けた準備を進める必要がある。</p> <p>〈えきまえテラス〉施設の利活用については、整備目的である中心市街地の賑い、回遊性の向上に資するための取組が必要である。</p>		<p>〈地区開発の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都や鉄道事業者など関係者との検討会の設置、開催 ・地区開発事業プランの作成 ・権利者との合意形成に向けた権利者との協議 <p>〈えきまえテラス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺関係者や庁内所管と連携したイベント開催 	
2							

施策番号	22	細施策番号	3	細施策名	主要駅周辺の拠点・回遊空間の形成	事業名	都市計画事務（中心市街地公共トイレ環境づくりの推進）
目標設定にあたって重視した点				経営計画に掲げる重点事業の推進			
3	【目的】		【目標（2030年のあるべき姿）】		【目標（年度末のあるべき姿）】		
	<p>「八王子市中心市街地まちづくり方針」における戦略の1つである「回遊・滞留の場づくり」を進めるため、中心市街地の公共トイレ環境の向上を図る。</p>		<p>【みんな】が快適に利用でき、「使いたいと思えるトイレ環境」の実現が図れている。</p>		<p>■維持管理協議会による情報共有と意識醸成。 ■「民間トイレの認定制度構築」の準備が整っている。 ■常設のデジタルトイレマップに発展させ、トイレ情報を広く発信できている。</p>		
	【現状】		【課題】		【事業内容】		
<p>◆船森公園トイレ改修に伴う設計コンペを公園課と連携して実施。 ◆公共施設トイレ管理所管と「維持管理協議会」を設置及び開催。 ◆「共創の窓口」を通じて、八王子まつりの際にデジタルトイレマップを公開。</p>		<p>公共トイレ環境づくり基本方針に示したリーディングプロジェクトである「維持管理協議会の設立」、「老朽化トイレの改修」、「民間トイレの認定制度構築」を実施していく必要がある。また共創の窓口からの提案に対して、提案者と連携を図り、共創の取組を進める必要がある。</p>		<p>●維持管理協議会を定期的に開催し、維持管理の改善。 ●「民間トイレの認定制度構築」に向けた民間事業者へのヒアリング及び手法の検討。 ●常設のデジタルトイレマップの公開。</p>			
施策番号	31	細施策番号	1	細施策名	中心市街地の活性化の推進	事業名	中心市街地の活性化
目標設定にあたって重視した点				市民生活・地域経済の回復、発展			
4	【目的】		【目標（2030年のあるべき姿）】		【目標（年度末のあるべき姿）】		
	<p>多様な価値観や幅広い世代が“つながり”にぎわい”が生まれるまちを方針に、令和5年3月に国の認定を受けた「第2期 八王子市中心市街地活性化基本計画」に掲げる各事業の進行を管理するとともに、まちなか魅力づくり補助金、中心市街地魅力あふれる個店リノベーション補助金など、にぎわいに繋がる取組を推進する。</p>		<p>市民が中心市街地を『居心地が良い・訪れて楽しい』と感じる割合80%を目指し、歩行回遊性と滞在性が持続的に高い状態を実現する。 ※「満足度80%」は八王子未来デザイン2040のKPI整合（資料内の市民満足度目標）</p>		<p>計画第2期を着実に推進し、八王子ならではの歴史・文化・暮らしといった地域資源を商業やイベント等と結びつけることで、賑わいが創出されている。また、令和8年度から次期計画の検討・準備に着手し、官民連携や地域との協働による持続可能なまちづくりの仕組みを深化させ、魅力が高まる基盤を整える。</p>		
	【現状】		【課題】		【事業内容】		
<p>八王子市中心市街地は一定の賑わいを維持しているものの、回遊導線の弱さや、EC化の進展による来街動機の低下、エリア間の賑わい格差が課題となっている。現在、官民連携による空き店舗対策や魅力発信の強化、八王子桑都千景の効果検証・活用に向けた取組を進めている。</p>		<p>中心市街地では、立ち寄りや滞在、休憩の場が不足しており、公共・民間空間や動線を生かした回遊づくりの強化が求められている。また、ECの普及等により商業環境が厳しさを増す中、八王子の歴史・文化・暮らしの魅力を来街や消費につなげる取組が重要である第2期計画では、第1期のハード事業を基盤に、ソフト事業の充実と民間のアイデアを生かした事業展開を進めるとともに、効果的な広報・PRや協働による価値創出、評価手法の向上が課題となっている。</p>		<p>①中心市街地活性化基本計画 第2期（R5～R9）の実行 ②魅力ある個店創出リノベーションの促進支援 ③まちなか魅力づくり支援での新たな地域資源の創出 ④エリアリノベーションの推進 ⑤桑都千景の効果検証・活用</p>			